

# やくしまに暮らして

ネイチャーガイド 大野 睦

## 第七章 ウミガメのこと

### ■何故ウミガメの話？

実は第一章でも述べているのだが、私が屋久島に移住した一番の理由がウミガメにある。幼少期より地元大阪よりいちばん近いウミガメ産卵地である和歌山県千里浜で毎夏ウミガメ観察をしており、学生時代に参加した日本ウミガメ会議、そして屋久島での生態調査ボランティアで学んだことが屋久島で暮らしたいと思う気持ちを募らせた。ここではウミガメから見る今を私なりの視点でお伝え出来ればと考える。

### ■日本のウミガメ



日本人にとって一番馴染みのあるウミガメはアカウミガメであろう。何故なら日本本土に上陸するウミガメはアカウミガメだけ

らである。他に沖縄、小笠原にて上陸産卵が確認されるアオウミガメ、そして八重山諸島ではタイマイの上陸産卵が確認できる。この3種類が日本で上陸産卵するウミガメである。



日本で有名なアカウミガメ産卵地としては和歌山県千里浜、四国にはNHK連ドラの舞台となった徳島県大浜海岸がある。しかしながらどの地域のウミガメ産卵地としての環境は悪くなる一方で、かつ上陸産卵数の減少が止まらない地域も珍しくない。また、古くよりべっ甲細工の材料として使用されてきたタイマイの甲羅も日本人にとって馴染みのあるウミガメと言えるであろう。



### ■絶滅危惧種としての位置づけ

日本に上陸産卵する3種のうち、アカウミガメとアオウミガメは絶滅危惧IB類(EN)に分類され、ジャイアントパンダやシロナガスクジラと同じであり、タイマイは絶滅危惧IA類(CR)に分類され、こちらはシーラカンスやオランウータンと同じである。ウミガメが絶滅危惧種であるということは今も多くのウミガメの生息の確認されている地域においても非常に認識が薄いところが多いというのも現状である。

### ■世界のウミガメ



世界に生息するウミガメは8種(説によっては7種)に分類され、そのうち5種が絶滅危惧種である。また、日本の領海に生息するウミガメは上陸産卵にやってくる3種のほか3種類おり、全部で6種類。また、数年前には日本でこれまで産卵が確認されたことのないオサガメの産卵が奄美大島で確認されたこともあり、その生態についてはまだまだ解明されていないところの方が多く、このまま絶滅してしまうと尚更未知の生物となる可能性がある。

### ■屋久島のウミガメ



屋久島は日本最大の、そして北大西洋最大のアカウミガメの産卵地であり、日本のアオウミガメの産卵地の北限地でもある。これまで、屋久島で確認されているアカウミガメの産卵回数は日本で確認されている産卵頭数の約30%とやってきたが、ここ数年でまた更に屋久島の占める割合は高くなりつつある。屋久島で見られるウミガメが増えたのか、それとも他地域で見られるウミガメが減ったのか、どちらも大きな要因ではある。しかしながらウミガメの上陸頭

数だけを見えみると増えてきているとみられる部分もあるのだが、上陸しても産卵できない要因も多く、産卵率は年々低下しており、様々な環境の悪化は否めない。



また、2011年は屋久島でも台風の被害を受け、10数万個のウミガメの卵が流出している。



台風は自然災害だからと言い切れるほど人はその環境に手をつけずに暮らしてはいない。我々人間の環境は凄まじいスピードで、かつ目まぐるしく変わる今。その環境の変化は海や森など、取り巻く自然環境に影響を与えている。このままウミガメが絶滅する日を迎えるのだろうか。私は仮に自分が生きているうちにそのことが避けられないとわかっていても、今自分が出来ることが何か問い続け行動し、そして伝えてゆくことを諦めず、今年もまたウミガメに会いに浜へと向かうのであろう。

#### 参考資料

日本ウミガメ協議会

<http://www.umigame.org/>

屋久島うみがめ館

<http://www.umigame-kan.org/>